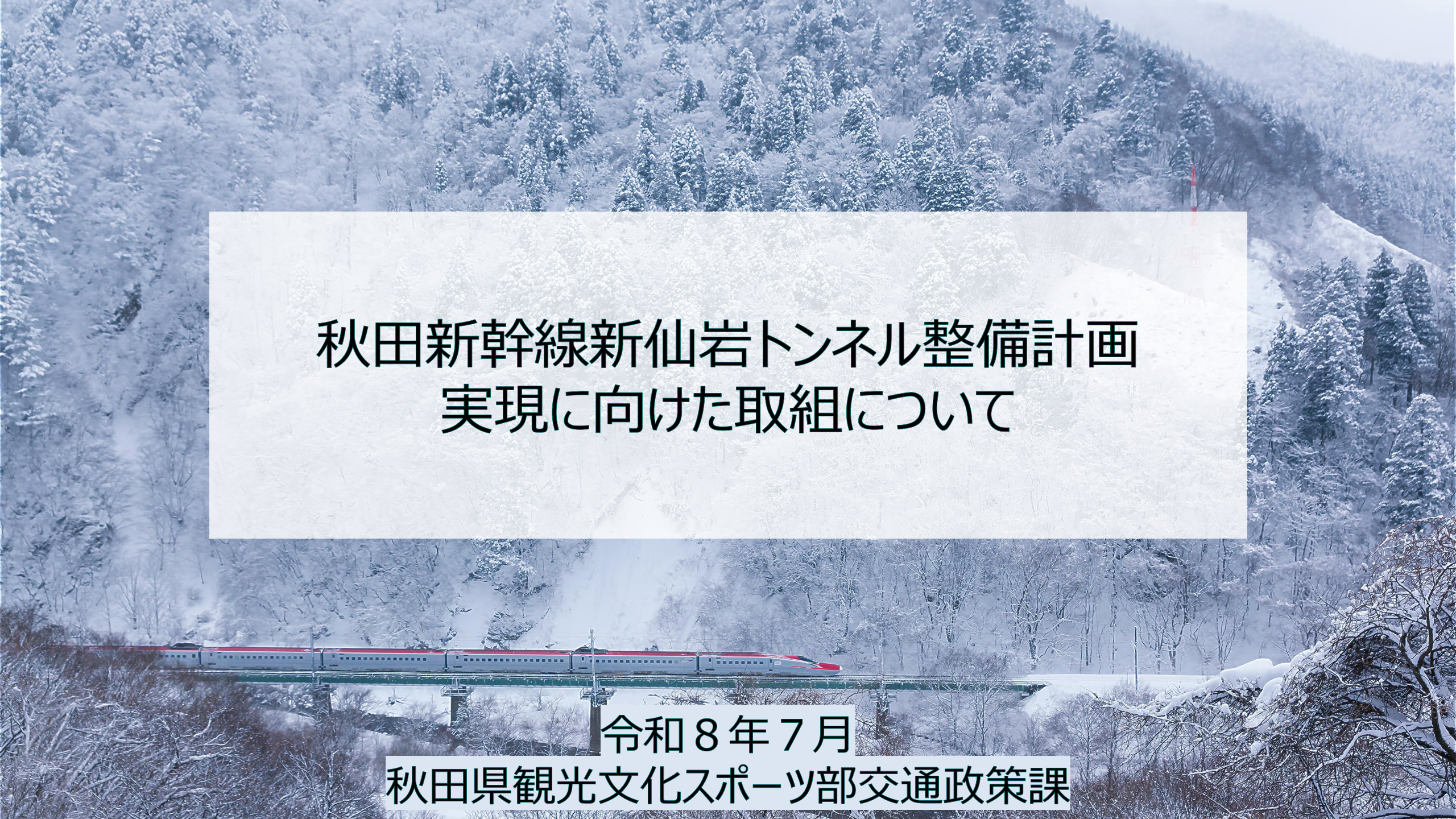


A photograph of a Shinkansen train crossing a bridge over a snowy landscape. The background is a dense forest of evergreen trees covered in snow. The train is white with a red stripe and is moving from left to right. The bridge is a simple steel structure. The overall scene is a winter landscape.

秋田新幹線新仙岩トンネル整備計画 実現に向けた取組について

令和8年7月

秋田県観光文化スポーツ部交通政策課

秋田新幹線新仙岩トンネル整備計画のこれまでの経緯

- 秋田新幹線新仙岩トンネルの整備計画については、JR東日本及び沿線市等からなる期成同盟会と連携し、国への**要望活動**や、**機運醸成**、**各種調査**、秋田新幹線の更なる**利活用促進**による整備効果を高める取組を実施。

平成29年11月～	JR東日本から計画の説明を受け、国による予算措置等を求める要望等を実施 整備概要：工期11年 事業費700億円 整備効果：防災対策の強化、運行の安全性・定時性向上、高速化（約7分間） 等
令和2年3月	秋田県「秋田新幹線トンネル整備に伴う経済波及効果分析等調査」結果を公表 整備効果：時間短縮（約7分間）による利用者便益 年約11億円 入込者数増加（年約4万人）による経済波及効果 年約6億円 等
令和3年7月	秋田県とJR東日本で「秋田新幹線新仙岩トンネル整備計画の推進に関する覚書」を締結 整備計画の早期実現に合意、事業スキーム確定に向けた検討を実施 等
令和3年10月 ～令和6年3月	秋田県とJR東日本で共同で地質調査等を実施 事業費・工期の再算出：工期15年 事業費1000億円 等
令和6年3月	秋田県とJR東日本秋田支社、秋田新幹線新仙岩トンネル整備促進期成同盟会と、「秋田新幹線と沿線地域の持続的発展プロジェクト」に関する連携協定を締結しPTを組織 沿線地域の持続的な発展に寄与する取組を推進 整備により期待される効果を最大限に高めることで、計画の実現可能性を高める
令和7年3月	PTにより「秋田新幹線と沿線地域の持続的発展プロジェクトアクションプラン」を策定

秋田新幹線と沿線地域の持続的発展プロジェクトアクションプラン

- 新仙岩トンネルの整備効果を最大限に高め、早期の整備実現につなげていくため、
 - 秋田新幹線の日常的な場面における利用の喚起及び拡大
 - 交流人口の更なる拡大に向けた秋田新幹線の活用
 - 秋田新幹線を活用した鉄道以外の分野との共創の推進による沿線地域の活性化の3つの柱からなるアクションプランを令和7年3月に策定。
- 昨年度は、日常利用の促進に向けた広報活動や、県産品の輸送、新幹線移動時間を活用した就活イベント等を実施。

(昨年度の取組例)

日常利用の促進に向けた広報

Everyday Life, Expanded by the Shinkansen.

日常がもっと便利に、もっと快適に

新幹線県で、広がる日常。

便利! 新幹線は 都市部へのショッピングや病院への通院も、新幹線ならスムーズ。移動中はゆったり座って仕事をしたり、本を読んだり、自分の時間を満喫します。

安全! 新幹線は 雨や雪の日でも安心して走れるのが新幹線。道路の渋滞に巻き込まれる心配もなく、遅さと時間の正確さ、安全性で信頼できる移動手段です。

速い! 新幹線は 遠くの職場や学校への通勤・通学も新幹線ならラクラク。短時間の移動で勉強や仕事はもちろん、家族との大切な時間もたっぷり確保できます。

秋田駅～盛岡駅の区間で、特定特急券・タッチでGO!新幹線なら、秋田新幹線におトクに乗れちゃいます!

秋田新幹線 盛岡～秋田駅間 乗車券・特急券 1,050円おトク!

タッチでGO!新幹線 秋田～盛岡間の区間で乗車券・特急券をタッチでGO!新幹線にすると、乗車券・特急券の料金が1,050円おトクになります。

秋田新幹線 盛岡～秋田駅間の区間で乗車券・特急券をタッチでGO!新幹線にすると、乗車券・特急券の料金が1,050円おトクになります。

秋田新幹線 盛岡～秋田駅間の区間で乗車券・特急券をタッチでGO!新幹線にすると、乗車券・特急券の料金が1,050円おトクになります。

県産品（えだまめ等）の輸送

※画像はイメージです。

<輸送列車> 秋田駅 午前10時07分発 秋田新幹線こまち16号 → 東京駅 午後2時08分着 (予定)

新幹線移動時間を活用した 就活イベント



(出典) 新宿高島屋プレスリリース

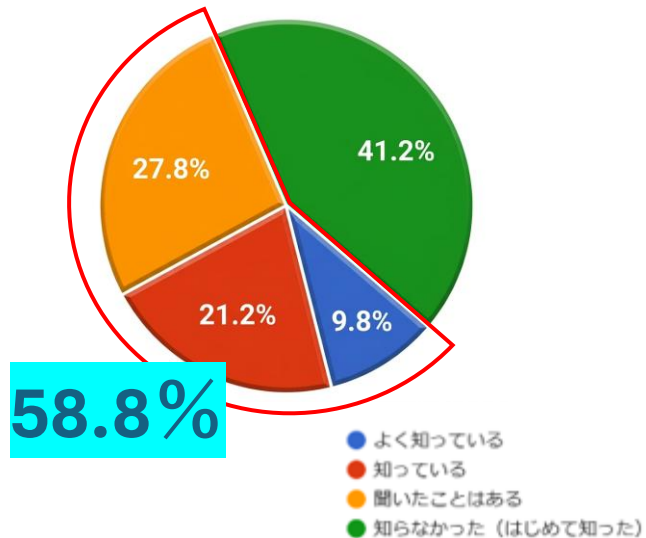
秋田新幹線に関するアンケート調査結果(概要)

- 昨年度、秋田県において秋田新幹線新仙岩トンネル整備計画に関する認知度等の調査を実施。
- 整備計画について **6 割弱が認知**、**7 割弱が利便性向上への期待**を示している一方、**他の交通手段との比較**で慎重な意見も見られた。
- また、秋田新幹線の**所要時間**や**運行安定性**等について改善を求める意見が見られた。

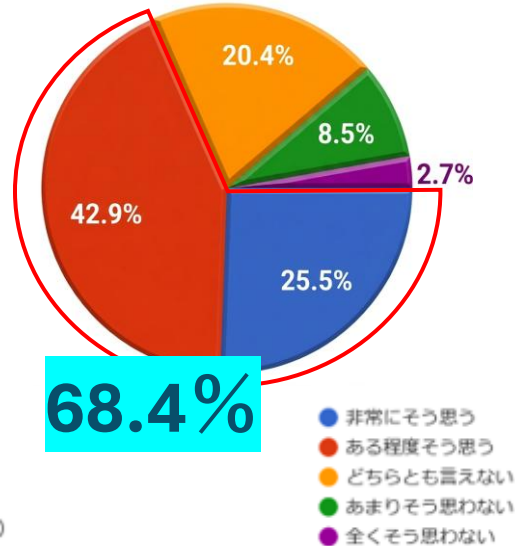
【調査時期：令和7年度 総回答数：1777名（うち、秋田県：967名、岩手県699名）】

■ 認知度と期待（新仙岩トンネル構想について）

整備計画の認知度



利便性向上への期待



■ 自由記述に見られる主な意見（新仙岩トンネル構想について）

（積極的・中立的な立場からの意見）

- 時間短縮・速達性への期待
- 利便性・快適性への期待
- 他の交通手段との比較/併用（費用対効果を見極めたい）

（慎重な立場からの意見）

- 他の交通手段が便利/安い（航空機や車、在来線等）
- 利用目的・利用機会がない（移動の潜在的な需要や必要性）
- 時間短縮効果が小さい/変わらない

■ 秋田新幹線について改善して欲しい点

（自由記述で多く見られた意見）

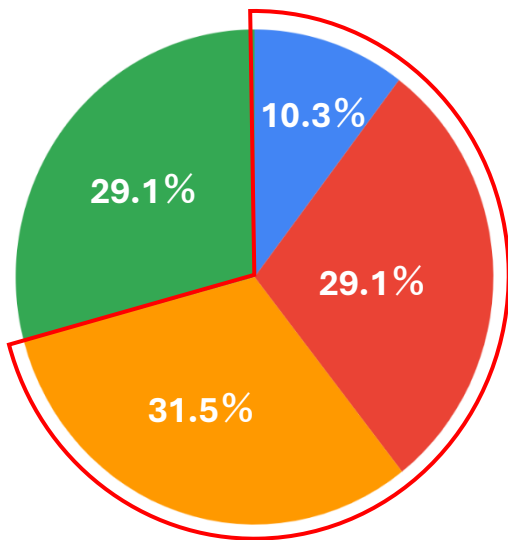
- 所要時間の短縮・高速化について（東京-秋田3時間以内等）
- 定時制の確保(天候や動物との衝突による運休)
- フル規格化/複線化、乗車中の揺れ・スイッチバックの解消

秋田新幹線に関するアンケート調査結果(概要)

- 岩手県と秋田県を比較すると、岩手県内では整備計画の認知度が3割強と限られている一方、利便性向上への期待は秋田県（6割強）よりも岩手県（7割強）が高い結果となった。

秋田県:967名

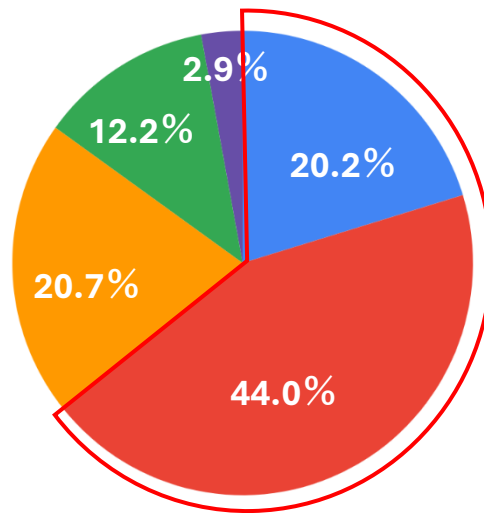
整備計画の認知度



70.9%

- よく知っている
- 知っている
- 聞いたことはある
- 知らなかった(はじめて知った)

利便性向上への期待

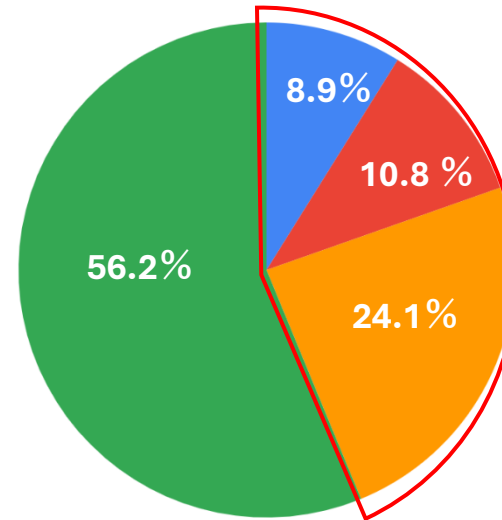


64.2%

- 非常にそう思う
- ある程度そう思う
- どちらとも言えない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

岩手県699名

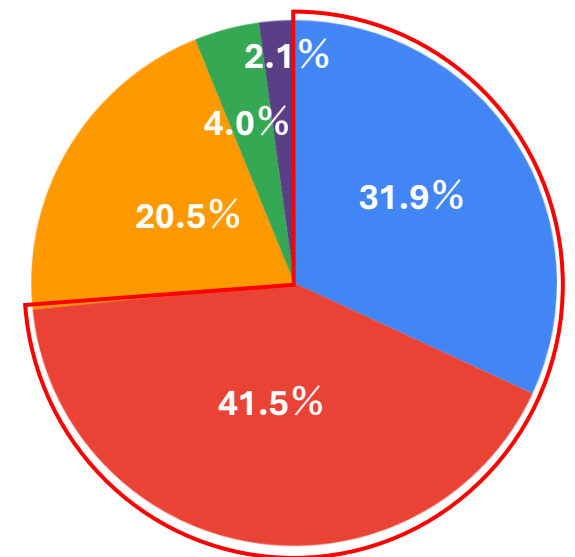
整備計画の認知度



34.8%

- よく知っている
- 知っている
- 聞いたことはある
- 知らなかった(はじめて知った)

利便性向上への期待

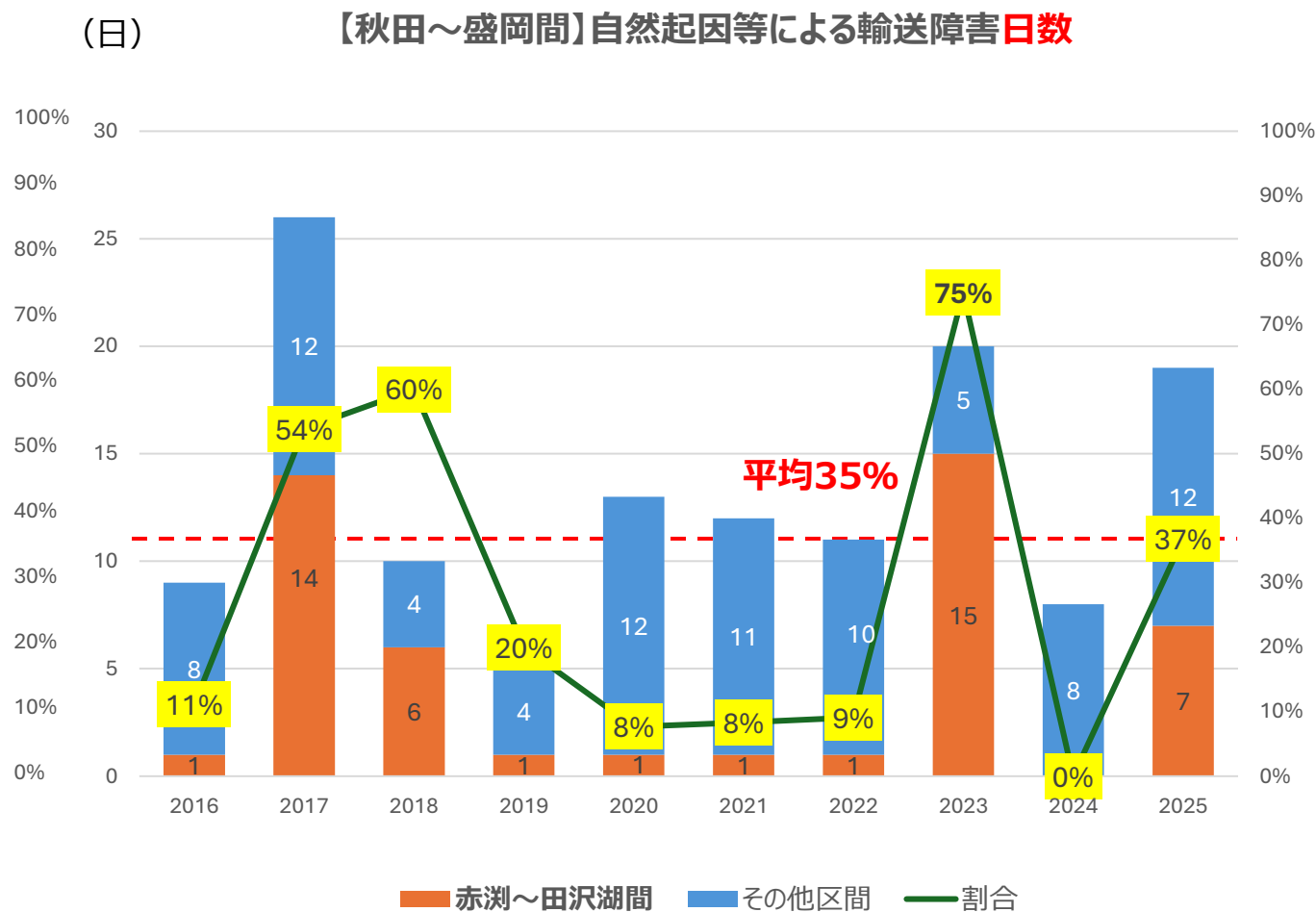
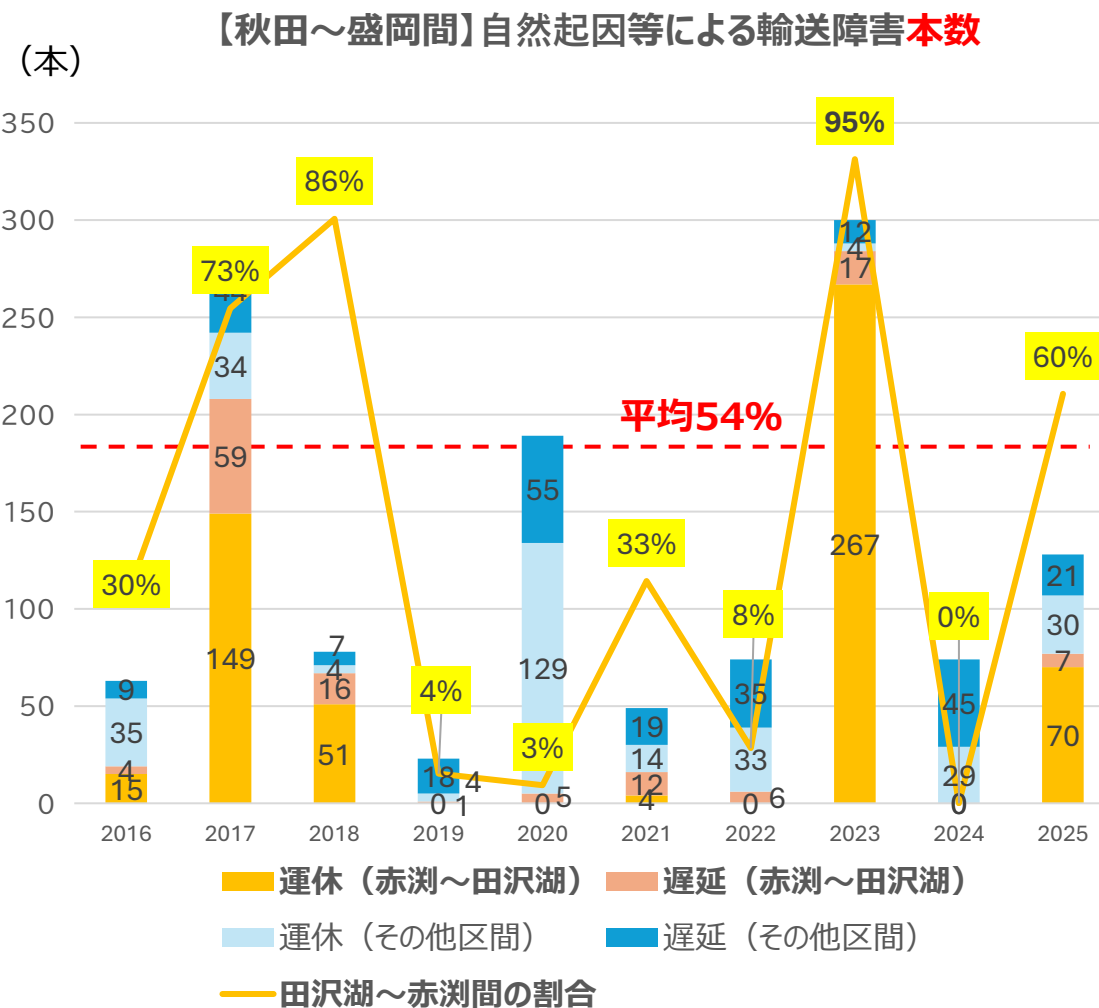


73.4%

- 非常にそう思う
- ある程度そう思う
- どちらとも言えない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

盛岡～秋田間の自然起因等による輸送障害の状況

- 秋田新幹線が走行する田沢湖線・奥羽本線（盛岡～秋田間）での自然起因等による運休・遅延状況について、過去10年間の平均をみると、列車の本数ベースで**約54%**、日数ベースで**約35%**が整備計画区間（赤湊～田沢湖間）で発生。
 - 年度によって大きく変動しており、本数ベースで**9割超**、日数ベースで**7割超**が整備計画区間で発生している年もある。
- ※ 輸送障害の本数・日数については普通列車も含まれる。

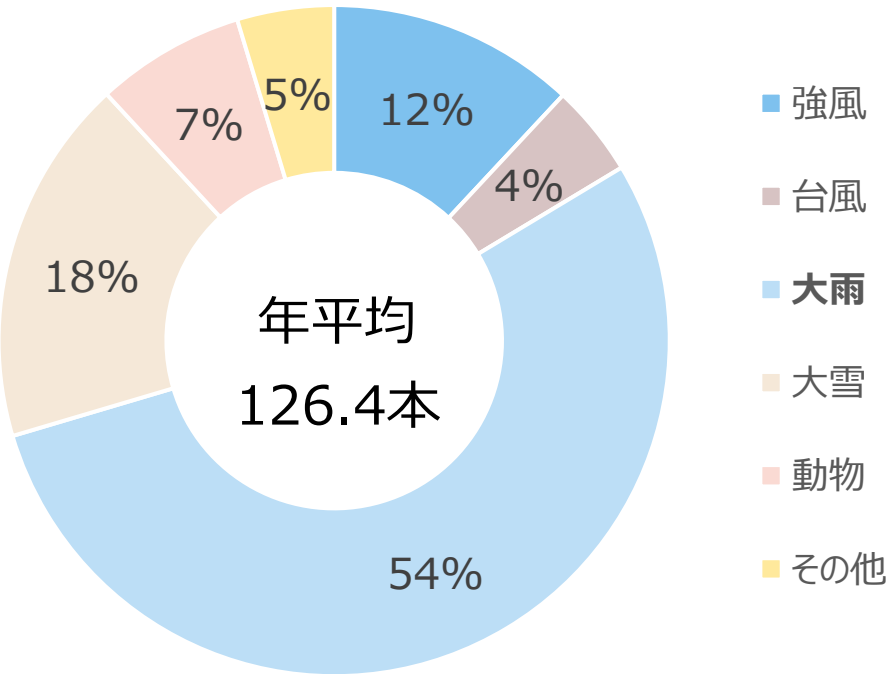


(出典) JR東日本秋田事業本部提供データに基づき秋田県交通政策課作成

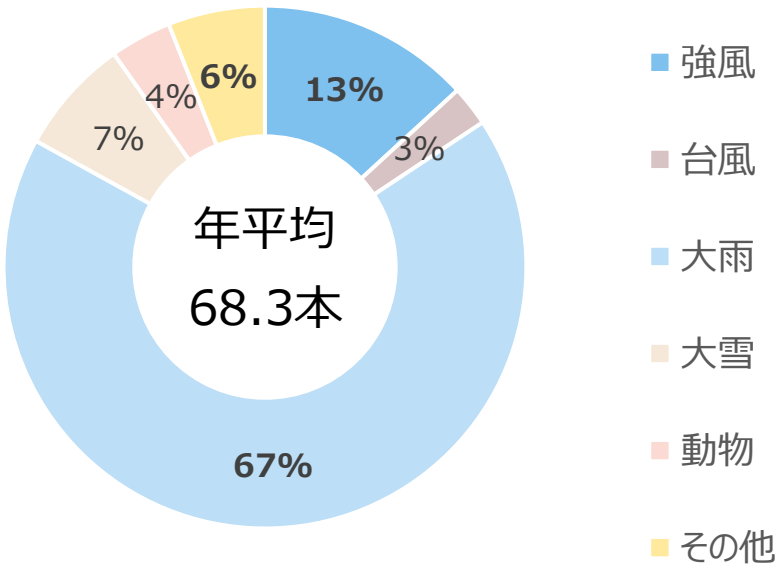
盛岡～秋田間の自然起因等による輸送障害の状況（本数ベース）

- 過去10年間の盛岡～秋田間の自然起因等による輸送障害の約**54%**（本数ベース）は整備計画区間で発生。
- 輸送障害事由を盛岡～秋田間と赤渕～田沢湖間で比較すると、整備計画区間は**強風**や**大雨**、**その他**（倒木、濃霧、雷、複合）による輸送障害の割合が高い。

輸送障害事由（盛岡～秋田）



輸送障害事由（赤渕～田沢湖）



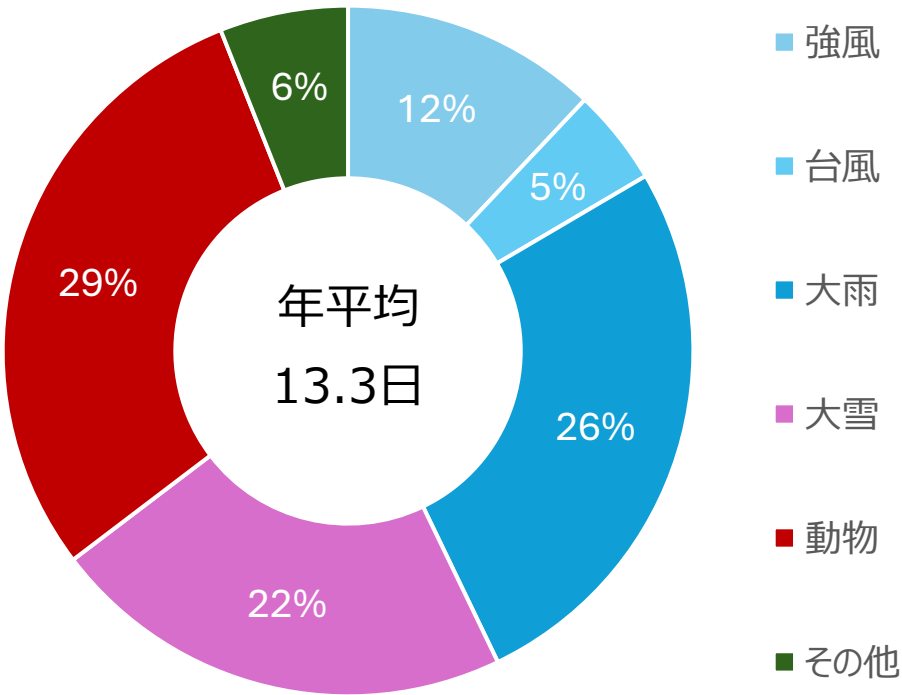
各障害事由の
赤渕～田沢湖の割合

強風	60%
台風	30%
大雨	67%
大雪	22%
動物	29%
その他	69%

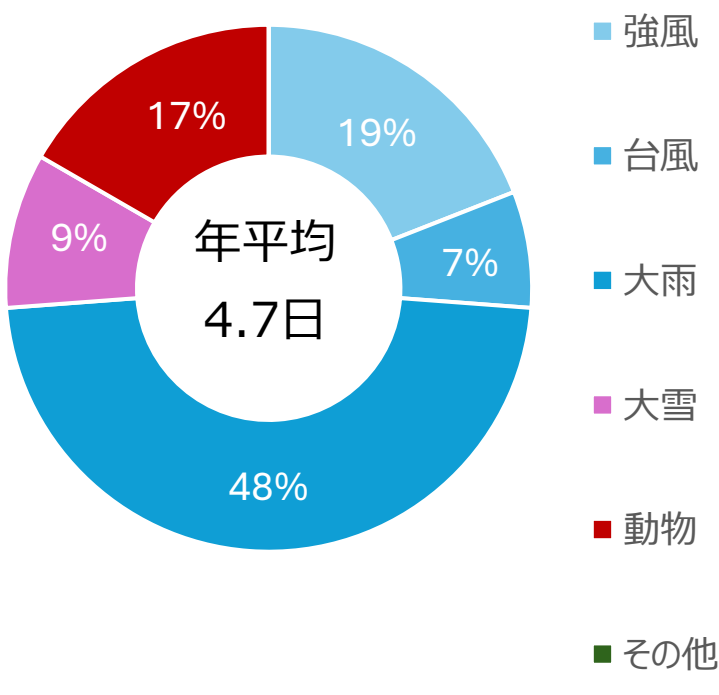
盛岡～秋田間の自然起因等による輸送障害の状況（日数ベース）

- 過去10年間の盛岡～秋田間の自然起因等による輸送障害の約約35%（日数ベース）は整備計画区間で発生。
- 輸送障害事由を盛岡～秋田間と赤渕～田沢湖間で比較すると、整備計画区間は**強風**や**台風**、**大雨**による輸送障害の割合が高い。

輸送障害事由（盛岡～秋田）



輸送障害事由（赤渕～田沢湖）



各障害事由の
赤渕～田沢湖の割合

強風	50%
台風	50%
大雨	57%
大雪	14%
動物	18%
その他	0%

秋田新幹線 利用状況

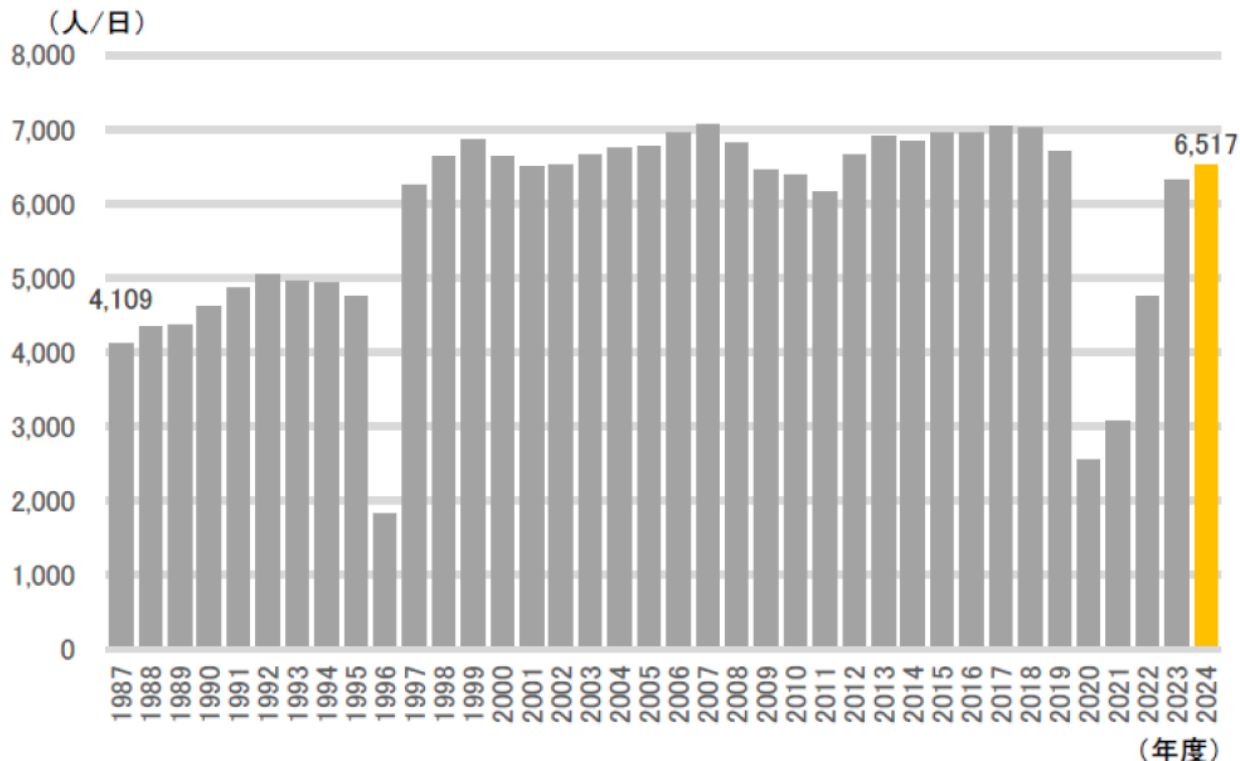
- 秋田新幹線が通る**田沢湖線の利用者数**の推移を見ると、2024年度時点では平成30年の約**93%**とコロナ禍前の利用者数に戻っていない。

(2018年7,023人/日≒約**256万人**/年 に対して、2024年6517人/日≒約238万人/年と約93%)

※ 秋田新幹線の利用者数は公表されていないが、JR東日本FACT BOOK2025では、東京～秋田間の輸送人員は2024年度**134.8万人**

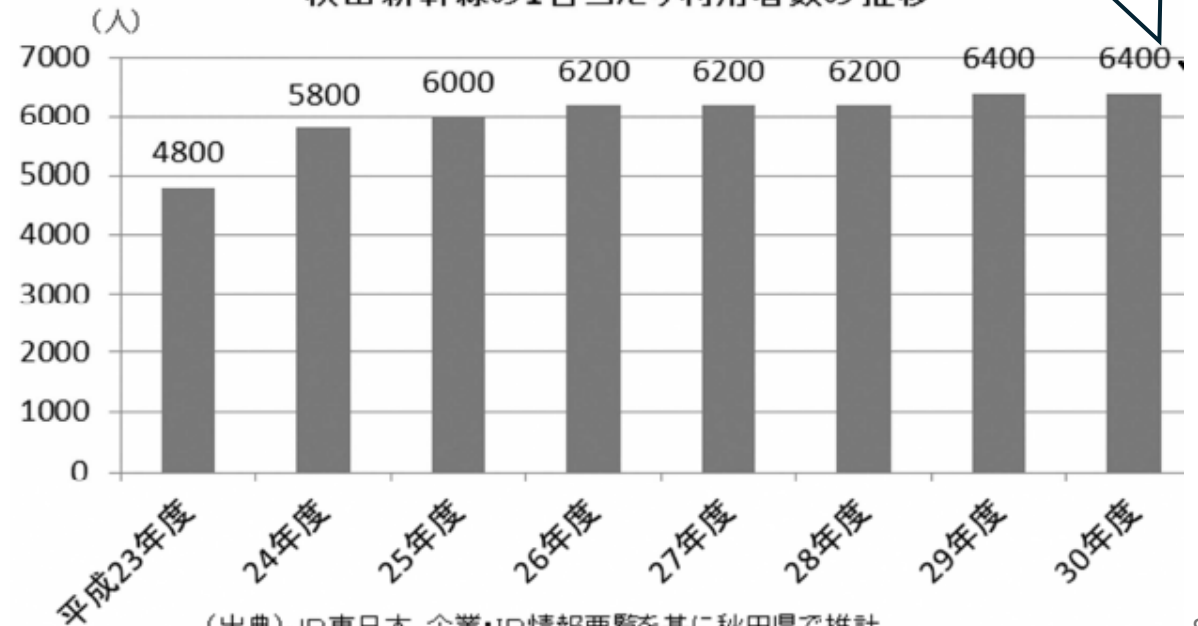
※ 秋田県「秋田新幹線トンネル整備に伴う経済波及効果分析等調査について」（令和2年）では、2018年の数字を約230万人と推定

田沢湖線（盛岡～大曲）



(出典) JR東日本「2024年度秋田支社管内 駅別乗車人員等のデータ公開について」

秋田新幹線の1日当たり利用者数の推移



(出典) JR東日本 企業・IR情報要覧を基に秋田県で推計

新幹線1日当たり
利用者数6,400人
年間約230万人

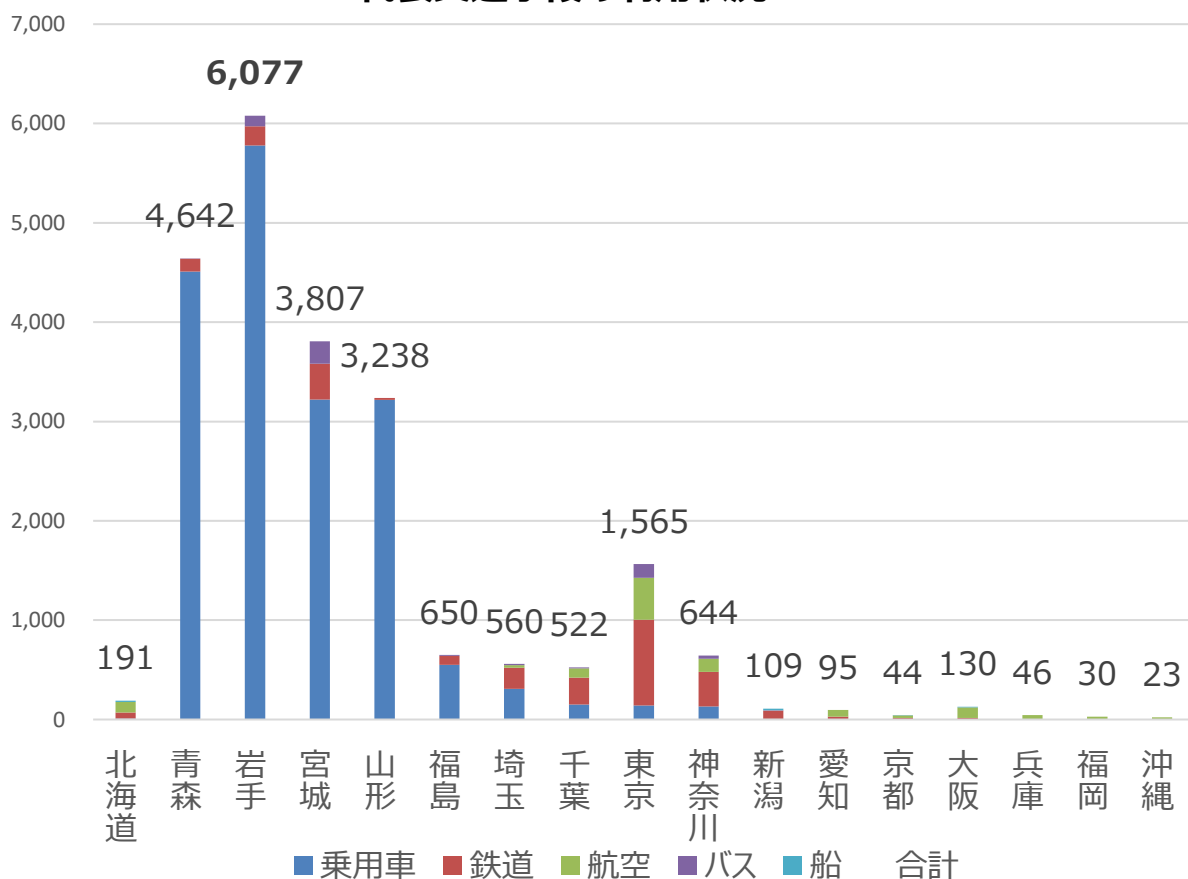
秋田県と各都道府県の流動（H27）

- 東北各県と秋田県の流動は**乗用車**が大半となっており、**岩手県、青森県、宮城県**の順で流動が多い。
- 代表交通手段**（主たる移動手段）の利用割合で見ると、**鉄道**について、特急で接続されている**新潟**が76%と最も高く、次に**東京**や**神奈川**、**千葉**などの**首都圏**で5割超と過半を占めており、**航空**は遠距離にある**北海道**や**愛知**、**大阪**、**福岡**、**沖縄**などで5割超と過半を占めている。

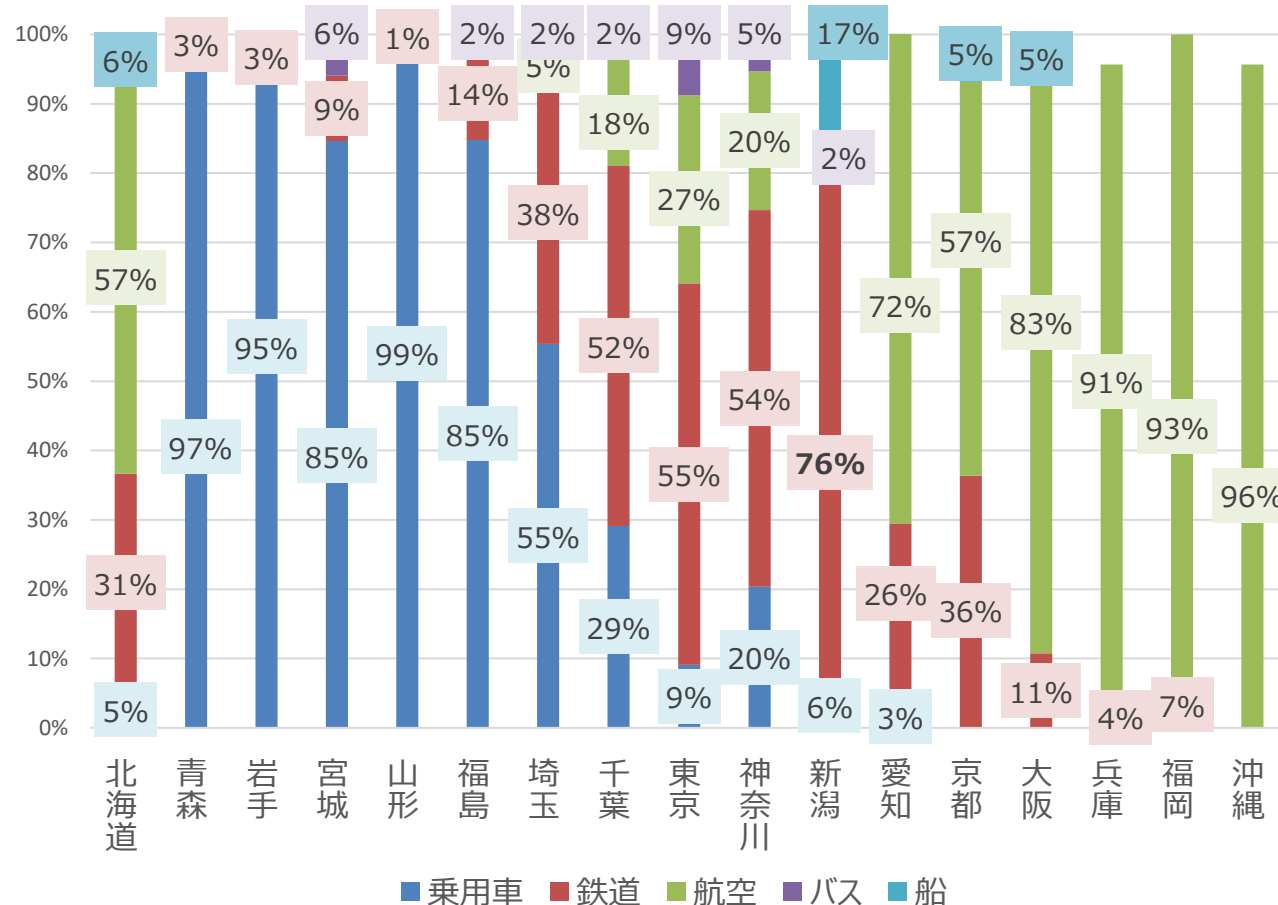
※ 乗り継ぎを含む実際の出発地から目的地までの一連の流動を調査（通勤・通学目的は含まない）

（単位：千人）

代表交通手段の利用状況



代表交通手段の利用割合

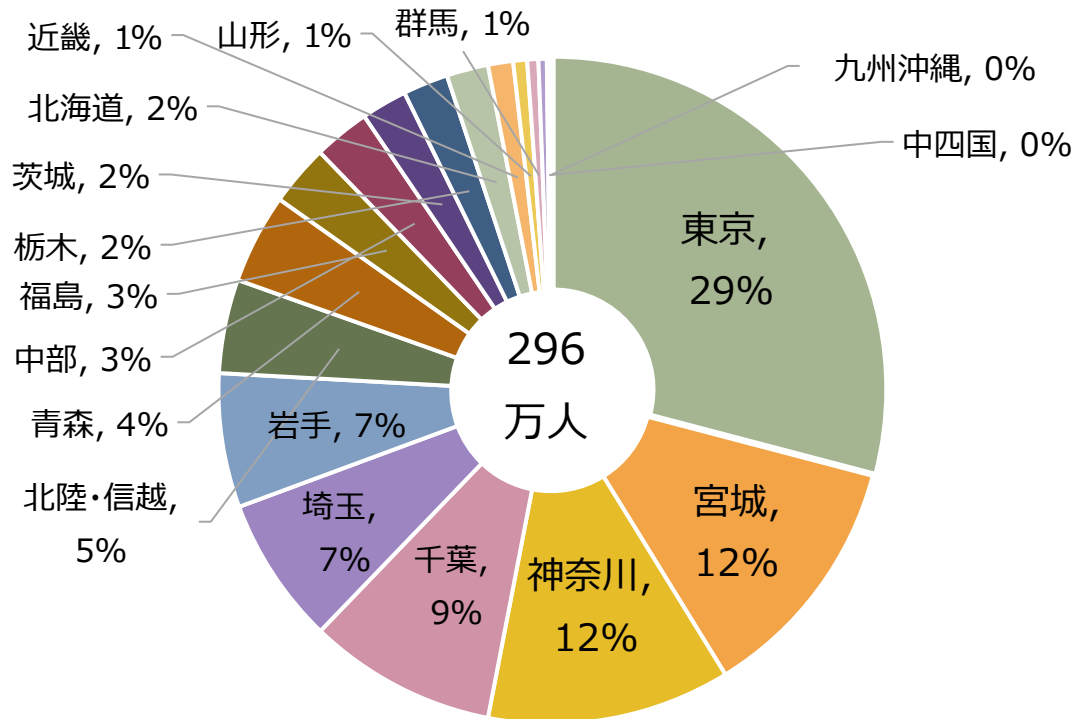


秋田県と各都道府県・地域ブロック間の鉄道による流動の割合

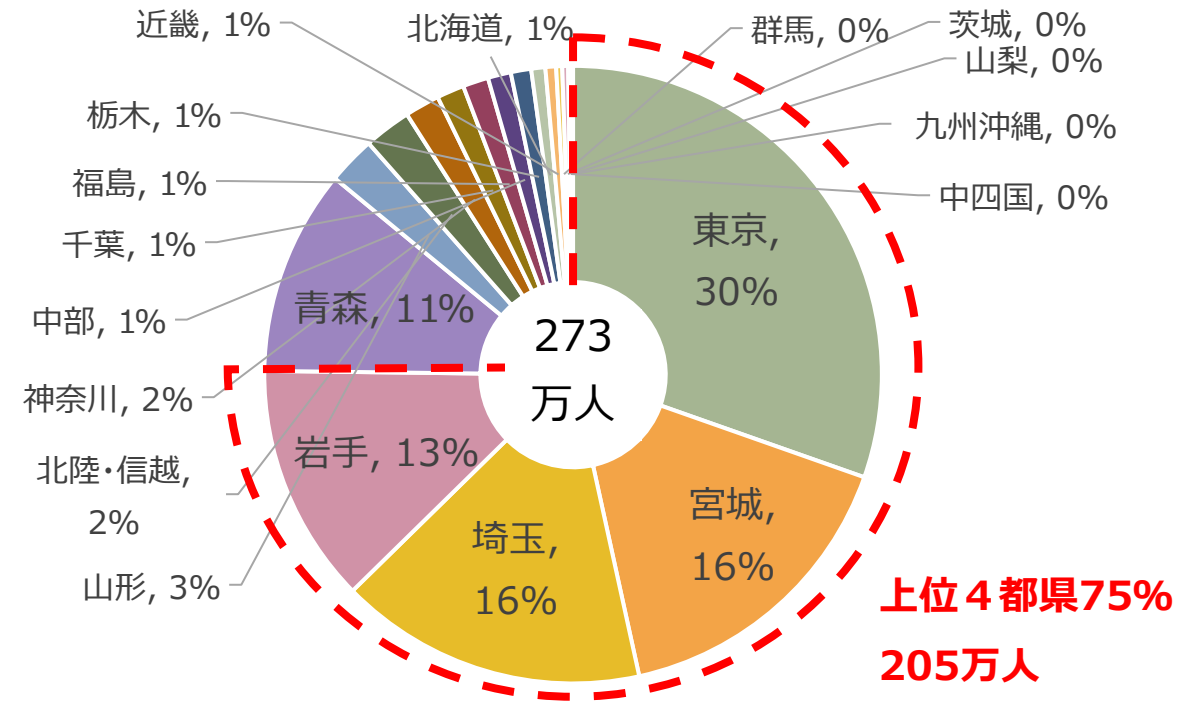
- 平成27年（2015年）の秋田県と各都道府県の**鉄道が代表手段**（主たる移動手段）である流動は、関東で過半の**63%**（うち東京、神奈川、千葉で50%）、**東北で27%**（うち宮城、岩手で19%）となっている。
- 令和5年（2023年）の秋田県と各都道府県の**JRによる流動**（複数交通手段の乗継ぎ処理なし）は、**秋田新幹線の停車駅のある上位4都県**の割合が**75%**（約**205万人**）と高くなっている。

※ 地域ブロックの定義は原則として運輸局の管轄と対応（関東・東北のみ都道府県別、兵庫県は近畿に算入）

秋田県と各都道府県・地域ブロック間の
鉄道が代表手段の流動の割合（H27）



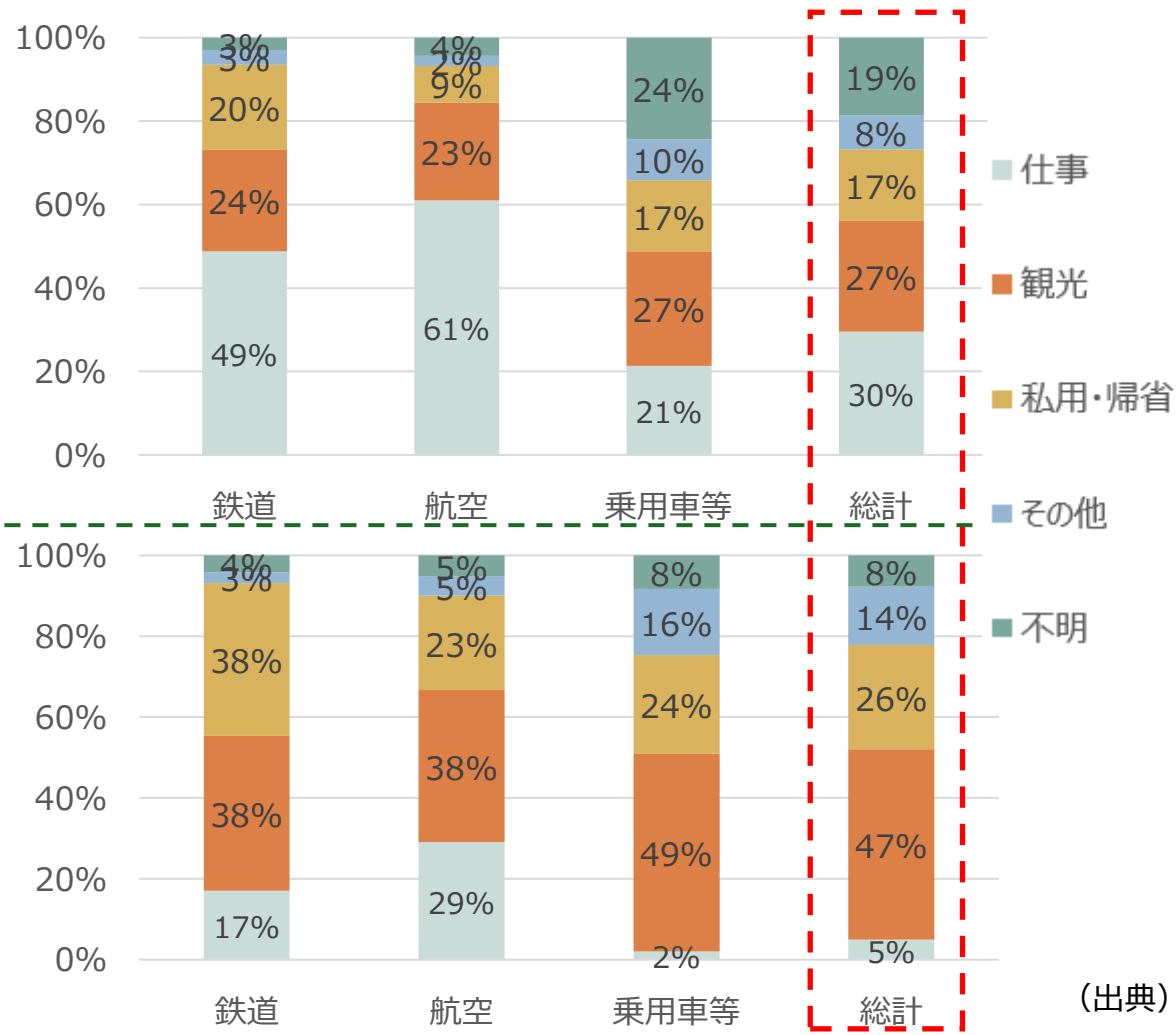
秋田県と各都道府県・地域ブロック間の
JRによる流動の割合（R5）



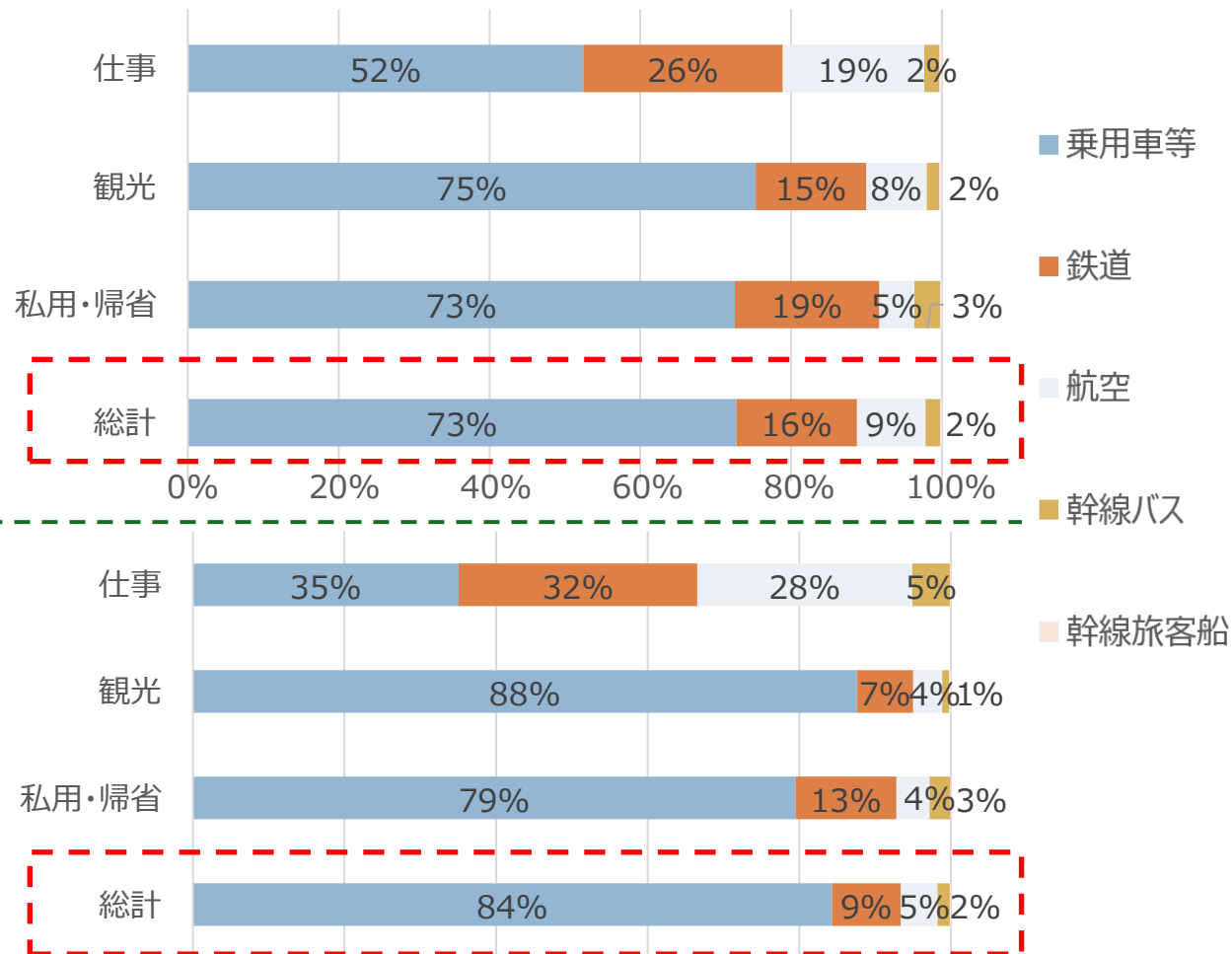
秋田県と他の都道府県の流動の目的（H27）

- 全体として平日は仕事と観光が同程度となっており、代表交通機関別（主たる移動手段）でみると、特に航空は仕事での利用割合が高い。
- 休日は観光が半分程度を占めており、観光の割合は、鉄道と航空で概ね同程度となっている。
- 利用目的別に見ると、鉄道は平日も休日のいずれにおいても、仕事や私用・帰省が高い割合になっている。

代表交通機関別の利用目的の割合



利用目的別の代表交通機関の割合



（出典）国土交通省「全国幹線旅客純流動調査（平成27年）」に基づき秋田県交通政策課作成

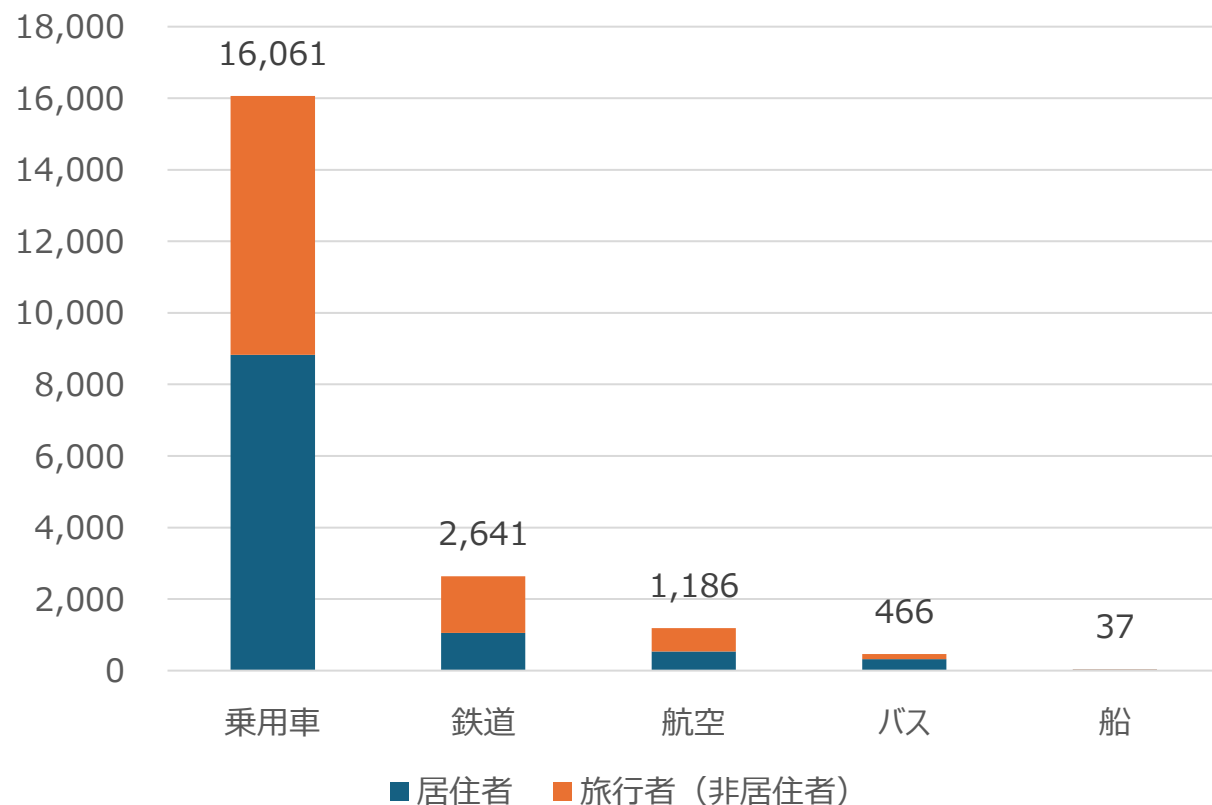
秋田県居住者・旅行者の流動（H27）

- 秋田県居住者と秋田県旅行者（非居住者）の流動を比較すると、**バスや船、乗用車は秋田県居住者の利用割合が高く、鉄道や航空については県外からの旅行者の利用割合が高くなっている。**

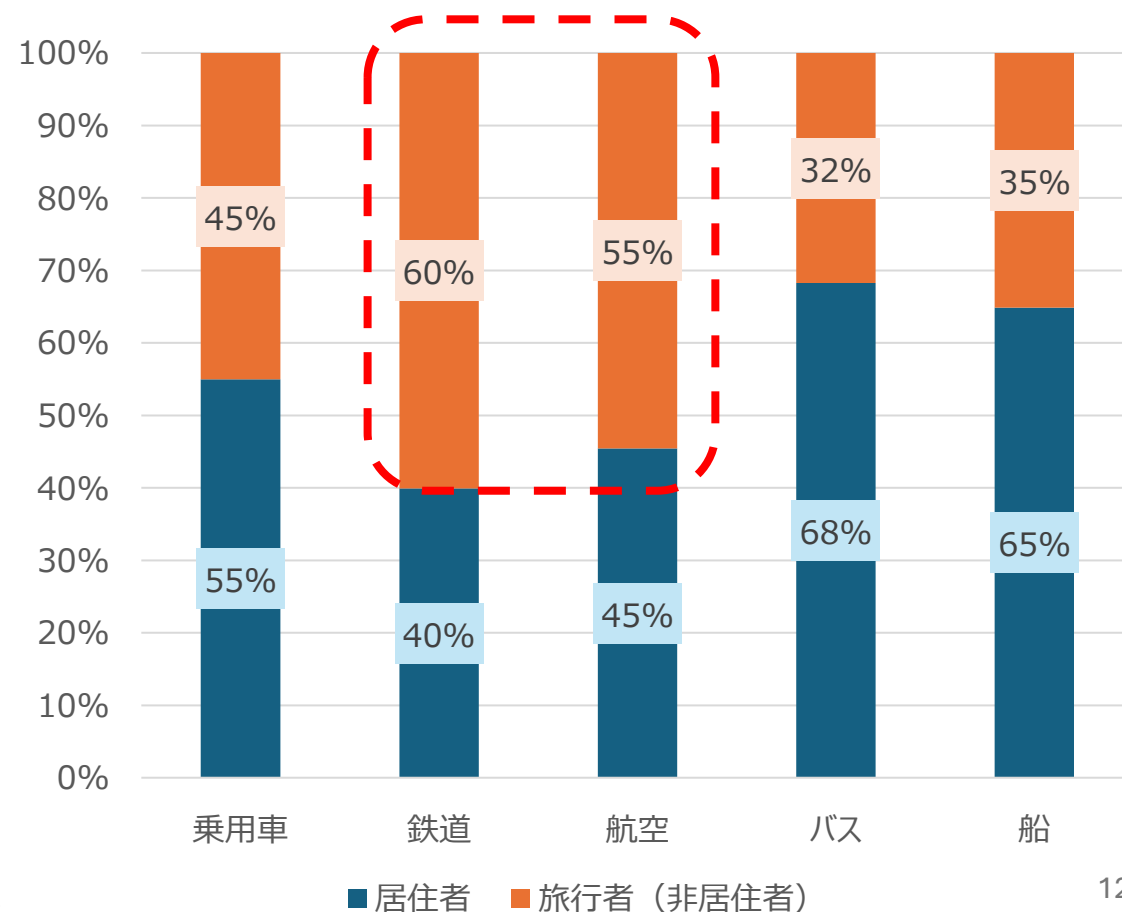
※ **航空旅客動態調査（R5）**によれば、**秋田空港**の利用者の46.8%（平日）、48.4%（休日）が秋田県居住者、
大館能代空港の利用者の36.6%（平日）33.9%（休日）が秋田県居住者となっている。

秋田県居住者と旅行者（非居住者）の代表交通手段

（単位：千人）



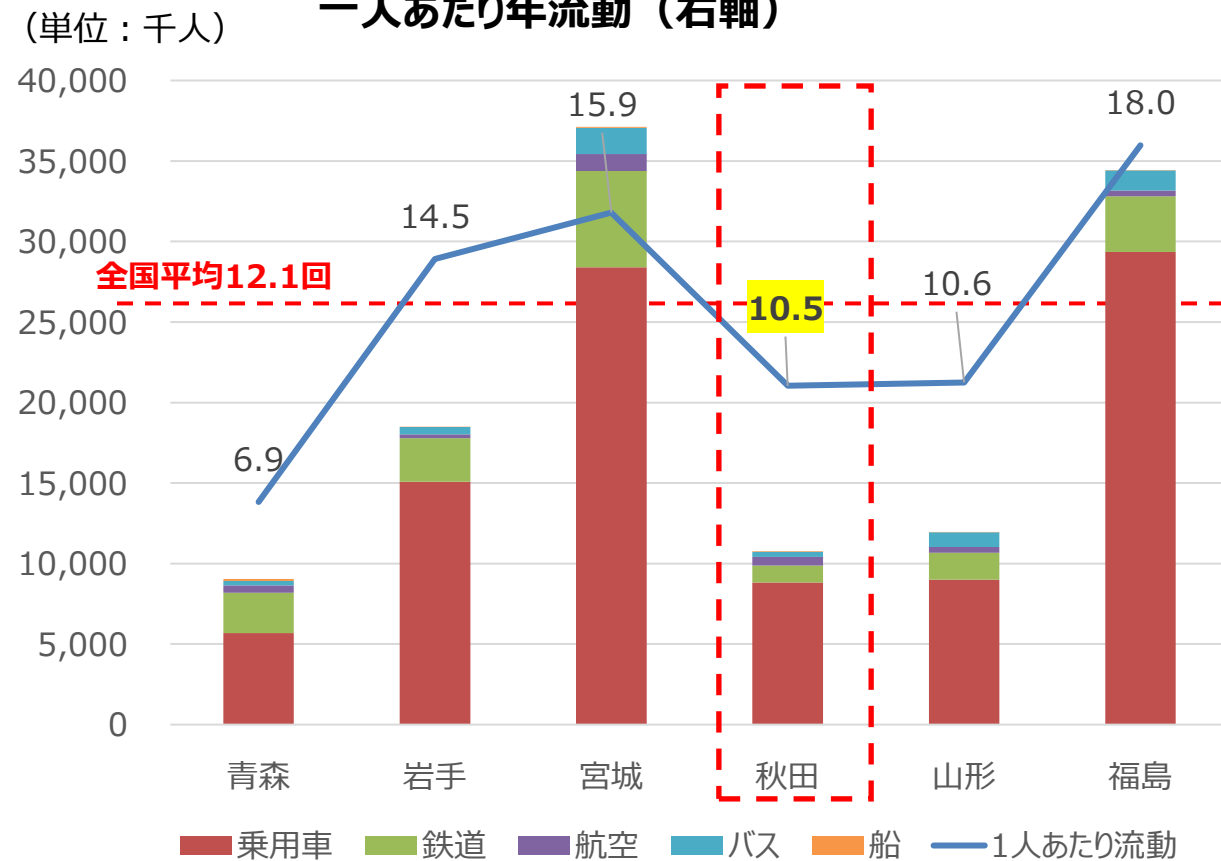
代表交通手段の利用割合



東北各県居住者の流動（H27）

- 東北各県居住者の都道府県を跨ぐ流動の数を人口比で比較すると、**秋田県は年10.5回**と青森県に次いで低くなっている。（全国平均12.1回）
- また、**利用する交通手段**の割合を見ると、秋田県は**鉄道が10%**と、福島県と並んで東北で最も低くなっている。（全国平均18%）
- なお、山形と比較すると、秋田は**鉄道**の割合が4%、**バス**の割合が5%低く、**航空**の割合が2%、**乗用車**の割合が7%高い。

代表交通手段の利用状況（左軸）と
一人あたり年流動（右軸）



代表交通手段の利用割合

